



丸山さんの明るい笑顔に励まされます



丸山さん手作りのみそ漬け。お茶請けには最高です

さんは10数年前、大切な家族を病気で次々と失いました。「あの時は心底、こたえました。今は頼もしく成長した孫息子との2人暮らしで、毎朝私のみそ汁をこしらえます。洗濯も掃除もなんでもしますよ」と言う丸山さんの笑顔の向こうに、悲しみをこらえながら、すっかりと身に付いた家事仕事のことを思い出します。

丸山さんはみそ漬けも手作りします。「亡くなったおば直伝のみそ漬けで、これがなかなかうまかよ」と言い、「また来なっせ」と笑顔で見送ってくれました。

林さんの充実した日々

前回の小谷地区の散歩で訪れた、県道熊本高森線沿いにある林家に再び足を向けてみました。林家は江戸末期に建てられた武家屋敷で、一昨年の4月に国の登録有形文化財に指定されました。

「今まで大切にこの家を守り継いできたことを、先祖や亡き父たちも喜んでいてと思います。毎年、正月や盆は親族が大勢この家に集います。すると、家が喜んでいるのが分かるんです」と言って、久しぶりの再会を喜んでくれた主の林富美子さん。親族の晴れの席に登場するのが、調理師の資格を持つ林さんの手料理。「なんてことはない家庭料理ですけどね」と謙遜する林さんは1日3食、丁寧に食事をとるのが信条、たとか。「友達が急にやって来たときなどは、常備菜や副菜の数を小鉢に盛りつけて食事をもてなします。なんとか様になるもんです」と笑います。

そんな林さんは長年、阿蘇くまもと空港近くのパイロット養成訓練所（現・崇城大学）でパイロットの卵たちの胃袋を満たしてきました。「おいしい！おいしい！」と



いつも優しい笑顔で迎えてくれる林さん



数種類の小鉢にご汁、高菜ご飯という林さんの昼食をのぞきました。どれもおいしそう

言って食べてくれる若い人たちの笑顔を見るのが楽しみでしたね」と振り返ります。

その後、林さんは空港ビルディングに勤務し、定年後は「町に貢献したい」と民生委員を引き受けたり、老人クラブの活動や四賢婦人記念館のガイド、毎朝子どもたちの登校を見守るなど忙しく過ご



庭先の日だまりの中で昼寝をしていた愛猫のビーちゃん



カメラ目線をくれる人なつこい三毛猫のナナちゃん



荒瀬橋から眺めた、林家の東側

しています。「時間が空いた時は愛猫のナナちゃんやビーちゃんに癒やされています」とほほ笑む林さんの充実した日々が伝わってきました。